

テーマ『地域との交流を通して、より多くの人に農業高校を知ってもらうためにはどうすればよいか。』について

中国ブロック 鳥取県立鳥取湖陵高等学校

食品システム科3年 古田 公則

食品システム科3年 高藤 勇作

緑地デザイン科2年 谷口 舞華

緑地デザイン科2年 安岡 凜香

1 はじめに

1) わが県とっとり

鳥取県は、西に中国地方最高峰の大山、東に日本三大砂丘の1つ鳥取砂丘と世界ジオパークネットワークに加盟が認定された山陰海岸があります。どちらも国立公園で、多くの人々が訪れて癒されています。山と海がハーモニーを奏でるすばらしい田舎といったところでしょうか。

農産物では『二十世紀梨』と『らっきょう』と『すいか』が特に有名です。高級ブランド『大栄すいか』は京阪神を中心に特に人気を集めています。二十世紀梨は、世界各国に輸出され、大栄すいかに関してはドバイに輸出されており、ドバイ王室へも献上されました。

観光名所としては、境港市が「ゲゲゲの鬼太郎」でおなじみの水木しげるさんのおかげで妖怪の町として大ブレイクし、琴浦町は漫画家・青山剛昌さん原作の「名探偵コナン」一色で、世界漫画サミットが開催されたこともあります。

最近のトピックスとしては、わが県観光名所鳥取砂丘を題材に、鳥取県知事平井伸二さんが「鳥取県には砂場はあるが、スタバはない」と鳥取県のアピールをされましたが、なんと今年5月にスタバが最終展開地として鳥取市に开店してしまいました。

2) 鳥取県連盟

現在、農業クラブに加盟している高校は5校です。クラブ員は671名です。その内訳は、鳥取湖陵219名、智頭農林169名、倉吉農業270名、日野8名、鳥取緑風5名です。鳥取県でも生徒数の減少や就業構造の変化にともなう高校再編によって、農業に関する学科が減りました。その影響で学校数・クラブ員数は激減しました。

本校は、農業学科2クラス、工業学科1クラス、家庭学科1クラス、情報学科1



クラスで編成された総合選択制（他学科の授業も選択できる）の学校です。来年度15周年を迎えますが、農業学科2クラスは維持されています。

2 鳥取県連盟が抱える問題点

高校再編によって農業学科単独校が2校に減ってしまい、その結果、県連の行事の運営が困難になっています。それは、各校によって取り組みに温度差が生じているからです。例えば、本校の場合、5クラス中2クラスの農業学科だけが一日行事を行なうことは、選択の授業に影響するため授業の調整が困難な状況にあります。

総合学科の学校に変わった高校では農業学科がなくなっていました。なかには農業に関する授業を選択した人だけが農クに参加するという高校も現れ、とても深刻な問題になっています。

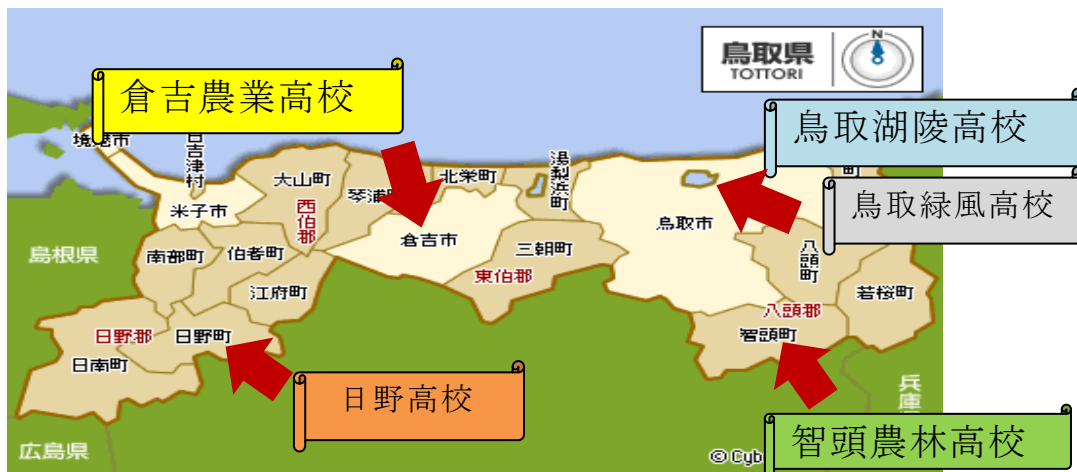
単独校は農業高校という意識が強いので、農業クラブへの理解が容易だと思います。しかし、総合学科や総合選択制の学校は、農業高校生という意識が低いため、クラブ員という意識も持ちにくいのが現状です。

しかし、反面『農業クラブ員』は『農業高校生』と違い、誰でも参加しやすいというイメージがあります。この部分に活動の活性化の鍵があるように思われます。

そこで家庭クラブのように、授業選択者が農業クラブへの加入を義務づければ、たとえ学校が減ってもクラブ員数を維持できるのではないかと期待しています。

3 現在の主な取り組み事例

鳥取県では、全日制4校と定時制1校が地域の特色を利用し、環境に役立つ技術を利用した活動を行っています。



1) 倉吉農業高校（近隣保育園や小学校との交流、生産物の販売）

鳥取県中部に位置する倉吉農業高校の生物科では、近隣の保育園児や小学生に農業の楽しさを知ってもらうために乗馬や水稲の種まき、フラワーアレンジなどを通して、体験実習を行っています。また、実習で生産した野菜や加工品を定期的に販売して地域へのアピールも行っています。イベントにも積極的に参加し、郷土芸能の継承などにも努めています。



保育園児や小学生との交流と生産物販売

2) 智頭農林高校（地域交流を通しての地域活性化）

鳥取県東部の山間部にある智頭町は、林業の盛んな町です。しかし、過疎化が進み商店街も閑散としています。そこで商店街の一角に智頭農林高校の生産物や加工品を月に2回程度イベント販売する「ちのりんショップ」を2014年度の秋にオープンさせ、商店街の活性化に取り組んでいます。また、森林の維持管理の際に出る間伐材を使用して、町内に憩いの場を兼ねたバス停の製作を行いました。また、古くからこの地域に伝わる藍染をとおして、保育園や地域の方との交流も行っています。



「ちのりんショップ」



製作したバス停



藍染交流の様子

3) 日野高校（地域との交流）

鳥取県西部にある日野高校は、総合学科で、科目の中に農業科目を擁する学校です。山間部にあるため、生徒数は少ないですが、その分地域の方と密接に交流を行っています。保育園児と水稻の種まきをしたり、地域住民の方と一緒に野菜の栽培などを行っています。



地域の保育園児や住民の方との交流

4) 緑風高校（地域との交流）

緑風高校は、鳥取県東部にある定時制の学校で、科目の中に農業科目があります。その授業で、野菜や花の栽培を行ったり、食品加工の実習を行っています。地域住民の方との交流も盛んで、収穫した農作物を利用して様々な交流活動を行っています。



地域の方とのそば打ち体験や豆腐作り

5) 鳥取湖陵高校（地域との交流）

鳥取湖陵高校は、鳥取県東部に位置する総合選択制の学校です。5つの学科に分かれ、その中の2つが農業科になります。総合選択制のため、他学科の授業も受けることができ、野菜の栽培や食品加工、草花の生産から造園まで幅広く勉強出来るのも特徴です。食品システム科では、生産した農作物を近郊の直売所で販売実習を行ったり、地区の公民館の方と食品加工での交流も行っています。緑地デザイン科では、草花の生産からフラワーアレンジメント、作庭など行い、地域の小中学校との間で出前授業も頻繁に行っています。



販売実習の様子



地域との交流



中学校との交流

6) ここから見えてくる課題・対策

地域との交流や販売は、それぞれの学校で行っていますが、それを農業クラブ活動と認識して活動している生徒は少ないように思います。また、地域の方々もこの活動が農業クラブ活動であるとは知らないと思います。クラブ員が少なくなっている現状の中、活動を行っているからこそ、自分たちが農業クラブ員という自覚を持って行動をするにはどうすれば良いか、また、地域の人にどのようにすれば農業クラブを知ってもらえるのかを考えなければなりません。新聞などマスコミには載っているのに農業クラブ活動とは認識されていないようです。それなら県連で統一したロゴマークやマスコットキャラを決めて活動の度にそれを使用することによって、広く一般の方にも知ってもらえるのではないのでしょうか。

さらには、行っている活動が小中学校や公民館など比較的高校と連携の取りやすい所では、交流活動も盛んに行われていますが、その他の地域ではどうやって連携を取っていくかも課題となっています。例えば、農場や実習室を開放して、地域の方とともに農業を学んでみるなど、難しく考える必要はなく、地域への発信、地域からの情報提供を進めて活動を行っていけば、より多くの人にとって農業高校が身近な存在となり、知ってもらえるのではないかと考えます。

4 まとめ

鳥取県で行われている活動は、他にもたくさんありますが、農業クラブ活動（特に地域との交流）を報告させていただきました。

リーダーシップで掲載されている学校や生徒の皆さんの姿を見ると、『農業クラブってすごくまじめに頑張っているなあ。』といつも感心します。一生懸命みんなで何かに取り組むことができたなら、自分たちの高校生活ももっと充実するだろうなと思いました。

今回の発表は当初の趣旨と外れてしまったかもしれませんが、現実問題を知っていたら、それでも一生懸命取り組んでいる鳥取県連のクラブ員の努力を伝えたかったからです。発表のチャンスをいただけたことを感謝します。